

## えぐち 徹 (江口 徹) 34歳

飯塚市鏡田2525-28 TEL 0948-24-5932 FAX 0948-24-6189

1966年(昭和41年) 1月23日 飯塚市に生まれる  
1978年(昭和53年) 飯塚市立立岩小学校卒業  
1981年(昭和56年) 飯塚市立飯塚第一中学校卒業  
1984年(昭和59年) 福岡県立嘉穂高等学校卒業 水泳部在籍  
1989年(平成元年) 横浜国立大学教育学部卒業  
中学校教員養成課程政経法学専攻(憲法ゼミ在籍)  
1992年(平成4年) 飯塚市役所へ入庁 教育委員会生涯学習課へ出向  
1994年(平成6年) 庶務課勤務を命ぜられる  
1999年(平成11年) 会計課勤務を命ぜられる  
2000年(平成12年) 2月16日 思いを実現するために飯塚市役所依願退職

趣味: 水泳・読書(乱読家?)・オートバイ

水泳 中学2年から高校3年まで学校にて水泳部在籍  
筑豊水泳教室コーチ(昭和58年から現在に至る)

好きな作家 トム・克蘭シー 内田康夫 他

市民につかえるべき公務員として、飯塚市民の皆様から給料をいただく  
プロとして職務を行ってきました。

### 誓約書

- 1 市政の情報を報告会やインターネットなどを使い皆様に報告し続けます。
- 2 政治資金・研究費の用途の公開をお約束します。
- 3 公共事業に関して特定業者の推薦・紹介は行いません。
- 4 職員(臨時職員を含む)採用への働きかけ、口利きはしません。
- 5 企業・団体献金は受け取りません。

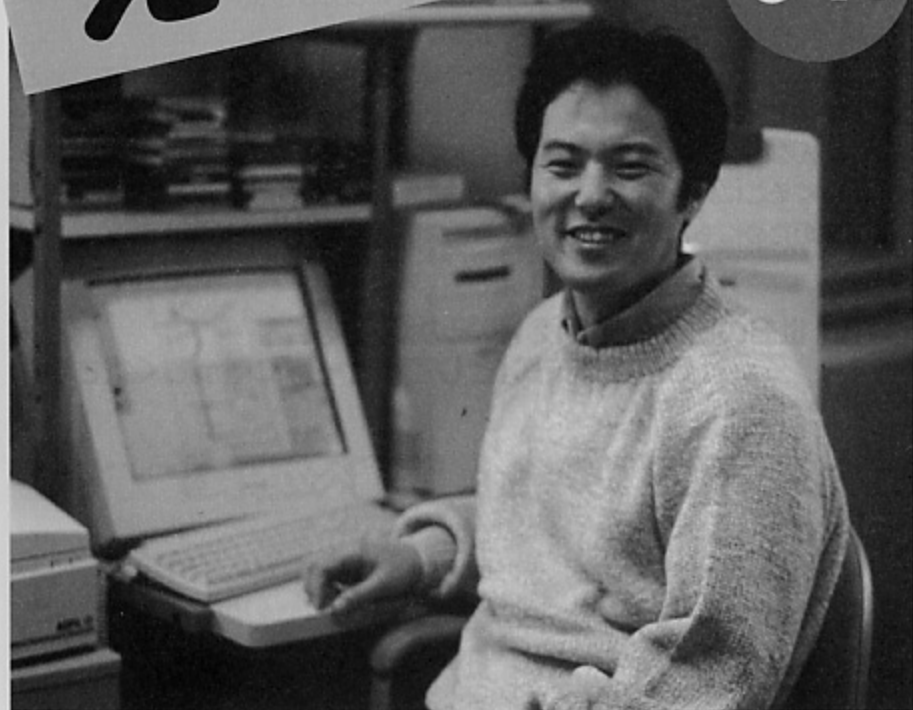
以上のことを守ることを、ここに固く誓います。

江口 徹 (江)

えぐち徹 情報発信創刊号 2000年2月  
私の考えを皆様にお伝えする記念すべき第1号です。

# えぐち 徹

34才



E-mail

BYA04100@nifty.ne.jp

ご意見お待ちしております

## インターネットのもたらす政治の革命

「国の政治はTV・新聞でわかるんだけど、どうも市政はわからない・・・」  
そう思ったことはありませんか？

21世紀、政治はインターネットで大きく変わります。行政はインターネットを通じて情報を提供しはじめています。市民は「言えなかった思い、不満」を多くの人に伝えることができるようになったのです。

経済がインターネットによって大きく変わったように、政治もインターネットの登場によって大きく変わってゆくのです。

私は、ホームページに市民の情報交換の場をつくり市政に反映させることと自分の考えを報告書やインターネットを通じて皆様にお届けします。

みんなで大切なお金「税金」の使い道を議論する新しい民主主義のかたちがすぐそこに見えています。飯塚はその先駆者となれます。  
未来のためにも、飯塚も政治も変わらなければなりません。

**「21世紀の政治の姿」、「21世紀の飯塚」を、  
「発言する市民」として私と一緒に創ってください。**

## 私の思い・・・「教育への投資」

私の考え方の本拠地は「教育」です。

私は大学での学習、そして水泳のコーチとして教育に関わってきました。

そのなかで感じてきたことは、「何に対しても疑問を持ち、自ら考えること。」の大切さです。

いままで日本は先進国に追いつくために先進国のしてきたことを学んできました。しかし、これからはお手本はありません。自分たちで新しい道を切り開いていかなければならないのです。

未来を創りあげるのは「自ら考え行動することができる人」です。その大切な「自ら考え行動することができる人」を創りあげる「教育」が、「これからのいづか」を支えていくと信じています。

そのために、公共事業中心の市政を脱却し、教育を中心としたソフトに投資していく市政を求めてゆきます。

## よりよい行政をめざそう

### 学生の記憶に残る街

「出会い」は財産です。縁あって飯塚に来た多くの学生。その縁を大切に学生と住民の交流を通じて、未来の飯塚を模索します。学生の「第2のふるさと」となれる魅力あるまちづくりを学生と共に歩みましょう。

### 温水プールの整備

山田市のサルビアパークのような温水プールの建設を次の目的で求めます。

1. 市民の健康づくり（ぜん息の治療やダイエットに）
2. 学校の練習施設（高校や中学の部活動や、基礎体力づくりに）
3. リハビリ用の施設（ケガや事故のリハビリとして）

### 図書館サービスの向上

教育の基盤的施設としての「図書館」をもっと身近に役立てていただくために次の3点を中心として、図書館サービスの向上を求めてゆきます。

1. 開館時間の延長  
現在は、木曜日のみ8時まで延長されていますが、その他の日でも仕事帰りの方が利用しやすいように、開館時間の延長を求めます。
2. 分館の整備  
市内全域の方に毎日図書館を使っていただけるように、図書館の分館の整備を求めます。学校や公民館を利用すれば安くできるでしょう。
3. 移動図書館（自動車文庫）による巡回サービス  
老人ホームや病院、幼稚園や保育園などへ移動図書館を走らせ、利用していただきます。障害者の方への宅配サービスも将来はどうでしょうか。

以上のような政策を実現させ、「アブナイまちいづか」から「住んでみたいまちいづか」へ、そして「自分たちで創るまちいづか」を実現したいと考えています。